

園庭の木々の緑色が濃くなり、日差しがまぶしい季節となってきました。庭では三輪車やブランコ、砂場で遊んだり、ダンゴムシを捜す子どもたちの姿が毎日見られます。

見ているところから少しずつ動き出しています

保育の視点③より

— 好きな遊び、好きな場所、好きな遊具を見つける —

晴れた日の朝、子どもたちが裸足になり、ブルマースを履いて砂場で遊んでいました。「よいしょ、よいしょ」と水を運んでジャーっと流したり、シャベルで穴を掘ったりしています。私も裸足になり、一緒にシャベルで穴を掘り、水に足をつけていました。その時、私はブランコで遊んでいた A ちゃんが少しずつ砂場に近づいてこちらを見ていることに気づいていました。

しばらくすると A ちゃんは私のそばに来て、「みんなブルマース履いてるね」「先生も裸足だね」とつぶやき、子どもたちが遊んでいる様子をじっと見ています。A ちゃんが砂場で遊びたい気持ちになっていると感じ、私は A ちゃんの隣りでカップに砂を入れて、ひっくり返しました。「出来たわ」と A ちゃんに笑いかけると、A ちゃんも私の顔を見てにっこり笑いました。私はもう一度カップに砂を入れてひっくり返します。A ちゃんは面白そうに見ています。私の手元と子どもたちの様子を交互に見ている A ちゃんがいつ動き出すのかを、私は楽しみに待っていました。

しばらくしてじっと見ていた A ちゃんが近くにあったシャベルを手に取りました。私もシャベルを手に取り「一緒にやってみましょうか？」と声をかけると、A ちゃんは「うん」と頷きます。A ちゃんと私は一緒に穴を掘り始めました。「穴が大きくなってきたわ」と A ちゃんに声をかけると、A ちゃんはにっこりと笑います。

その時、近くで砂場をしていた B ちゃんがジョウロを持ってやってきました。そして私と A ちゃんが掘った穴に少しずつ水を入れていきました。初め少し驚いていた A ちゃんも水が溜まっていく様子を、やがて目を輝かせて見ていました。水がたつぷりと穴に入ると、小さな池が出来ました。私は「足をつけてみようかな」と言って足を水につけました。「まあ冷たいわ」と言う様子を見ていた A ちゃんと B ちゃんも自分から靴を脱いで裸足になり、そーっと足を水に入れました。「冷たい！」と B ちゃんが声をあげると、A ちゃんも「冷たい」と言って笑いました。穴の水が無くなると、A ちゃんはまた穴を掘り、B ちゃんは水を汲みに出かけていきました。その後もシャベルで穴を掘ったり、水を流したりすることを繰り返し楽しみました。



幼稚園の中には、このように他の子どもや保育者がしていることをじっと見て、心を動かし、動き出す子どもの姿もあります。私は子どもが動き出す時の手助けをしたいと思っています。

「せんせい、描けたよ」

保育の視点②④

—自分が受け入れられていると感じ安心して過ごす、保育者に親しみを持ち心を寄せる—

今、年少組では手を動かして、作ったり描いたりすることの経験を積み重ねていきたいという思いのもと、お弁当を食べた後、絵を描くことやのりで貼ること、切ること等を皆がする時を持っています。

先日のお弁当の後は「絵を描きましょう」と伝え、必ず一人一枚は絵を描くことにしました。子どもたちはクレヨンを手に取り、画用紙に線を描いたり、色を塗ったり、顔を描いたりしていました。「絵を描いたら私のところに持ってきて、絵のお話を聞かせてね」と声をかけると、子どもたちは描いた絵を嬉しそうに持って、私のところにやってきます。

最初にCちゃんがやってきました。Cちゃんは画用紙をピンク色に塗っていました。「Cちゃんはどんな絵を描いたのかしら？」と尋ねると、Cちゃんは「ママだよ」と言いました。「ママなのね」と私も答えるとCちゃんはにっこりと笑って頷きます。「ママは何をしているのかしら？」と尋ねると、Cちゃんは「Cちゃんとお出かけしてるの」と言いました。「楽しそうね。絵のお話が聞けて嬉しかったわ」と声をかけると、Cちゃんは嬉しそうな顔で庭に出かけていきました。

次にDちゃんがやってきました。Dちゃんは画用紙いっぱい丸と線が描いてあり、お顔が描いてありました。「誰のお顔かしら？」と尋ねると、Dちゃんも「ママ。ママの顔」とはにかんだ笑顔で答えました。「この線は何かしら？」と尋ねると「口だよ」とDちゃん。それから点を指して「これは鼻」と言いました。「ママが笑っているお顔を描いたのね。絵のお話が聞けて楽しかったわ」と声をかけると、Dちゃんは嬉しそうな顔で頷いて、もう一枚絵を描きに行きました。

ママの絵ばかりではありませんでしたが、ママを描く子どもの多いことにお母様の存在の大きさを感じさせられました。この日、どんな絵を描いたかを話す子どもたちの顔が幸せそうで、私もこの子どもたちと一緒に過ごせることを幸せに思いました。



私たちは子どもたち一人ひとりと寄り添い、じっくりと話を聞いたり、一対一で関わる時を丁寧に持ちたいと思っています。また、遊びの広がりや楽しさを支える手の技（切ること、貼ること、描くこと等々）を、コツを伝えながら教えるものであります。
(杉本 美緒)